



児童生徒の「学ぶ力」の育成に向けた 取組を学校全体で推進しましょう！

©岡山県「ももっち」

児童生徒の「学ぶ力」の育成に向けて

昨年度まで『学力向上担当者通信』として、学力向上担当者の方に参考となる情報を発信してきました。今年度からは、児童生徒の「学ぶ力（学力+意欲：自分を高める力）」を育成するという目標をより明確にして、学校全体で組織的かつ計画的な取組を推進することを目指し、「児童生徒の『学ぶ力』育成通信」にタイトルを変更し、学力向上担当者に加えて研究主任の方も対象に情報を発信していきます。

今号では、児童生徒の「学ぶ力の育成」に向けた取組を学校全体で推進するための、学力向上担当者及び研究主任の学校内での役割を紹介します。

学力向上担当者及び研究主任の役割は非常に重要です！

児童生徒の「学ぶ力」(学力+意欲)

主体的な学びの充実

学ぶ意欲の向上
基礎学力の定着

授業改善の推進

- 育成を目指す資質・能力に基づいた授業づくり
- 授業改善について語り合う学校風土の醸成
- 一層短いサイクルによる学習内容の確実な定着

左図は、今年度の義務教育課の取組イメージです。

児童生徒の「学ぶ力」の育成に向けては、**学習者である児童生徒が主体的に学ぶ授業を充実させる**必要があります。そのためには、**児童生徒に「学びを委ねる」場が必要**です。年間を見通し、単元や授業、各活動において、児童生徒が自己決定・自己選択できる場面を設けましょう。

このような**取組を学校全体で組織的に進めることが、学力向上担当者及び研究主任の役割**です。管理職等と協議しながら、学校全体で組織的な取組を進めましょう。

【管理職と研究主任・学力向上担当者の協議イメージ】



研究主任

最初の校内研究全体会で提案する「すべての先生が取り組む共通実践」の案について協議したいと思います。

学習者主体の授業が求められているからこそ、「**先生が何を指導するか**」ではなく、「**子どもに何を学ばせるか**」の視点で考えてみましょう。



管理職



学力向上

昨年度の質問紙調査の結果を分析すると、「課題解決に向けて自分で考える」ところに課題がありましたね。



研究主任

昨年度の研究の課題にも「主体的に取り組めていない」ということが挙げられていました。では、「**めあて(目標)を示す**」を**子どもの視点にして「学習課題を自分事にする」**を共通実践として提案してみます。

課題解決及び授業改善の旗手はあなたです！

定着状況ウォームアップや定着状況確認テストをいつやるのか、結果をどう分析して、どう授業に活かすのか。児童生徒の「学ぶ力」(学力+意欲)を、授業研究や中間期学習状況調査でどう見とるのか。学力向上担当者と研究主任が一体となり、管理職等と協働して学校の課題解決に向けた取組をより組織的に進めてください！